Comm 5.0-AI・データサイエンス副専攻プログラム
カリキュラム・ポリシー（2025 年度以降履修希望生）

人材養成目的・プログラムの特徴

Comm 5.0 は、Communication と Community の有機的な融合的動態という社会のあり方を指している。次世代社会においては、ヒトとヒト、ヒトとモノ（技術やシステム）が十分に相互作用し、信頼と安全性の確保のもとに、多様な価値、イノベーション、ヒトの well-being を作り上げていくことが重要であり、ヒトとヒト、ヒトとモノの関係に介在していた分断を取り払う、Communication と Community の連続的な創造的運動を、私たちは、模索していかなければならない。本プログラムでは、AI およびデータサイエンスの先端的情報工学技術を用いて、Comm 5.0 の構築に取り組むことができる Comm 5.0 アーキテクトの養成を目的としている。

Comm 5.0 アーキテクトとは、以下に示す3つの能力を総合的・統合的に運用し、次代の社会を先導する人物である。
1) ヒトとモノとを分断的に捉えるのではなく、それらの共生を支える結びつきに目を向けることができる。
2) ヒトとヒトおよびヒトとモノから構成されるシステムの中で起こるコミュニケーションを熟慮することができる。
3) AI・データサイエンスの素養を持ち、ヒトを精緻に把握し、ヒトの情報の取得方法について高度な知識と技術を有する。

ディプロマ（サーティフィケート）・ポリシー

本プログラムでは、次代の社会を先導する人物を養成するために、次に掲げる資質・能力を総合的・統合的に身に付けたものを修了とする。

知識・技能

AI、IoT、ビッグデータ、データサイエンス等の先端的情報工学の知識・技能を習得する。また、ヒトに関するデータ取得や利用、もしくは、社会におけるコミュニティ構築のためのデータ取得や利用に関する知識を習得する。実験や実習を中心に行うことで、実践的な知識・技術を獲得する。

思考力・判断力・表現力

文理融合的な視点で未来の技術の活用方法を考察する能力を習得する。今後出現すると予想される未来技術について議論し、来るべき社会のあり方を考察できる。

主体性・多様性・協働性

他者と連携して行う共同研究に主体的に取組み、今後の社会動向やニーズを自ら考える能力を有する。

カリキュラム・ポリシー

Comm 5.0 –AI・データサイエンス副専攻プログラムにおいて考慮する社会的課題を解決する人物が持つべき能力を養うために、本副専攻では 5 つの科目群を設置し、それらに対応する各科目を提供する。また、科目群で得た知識と技術の体系化及び実践を目的としたミッション研究を行う構成とする。本プログラムの科目は「高等研究教育院設置科目」であり、大学院修了要件における履修単位数あるいは必修科目数等については、各研究科のカリキュラム・ポリシーに従って別途定める。

本プログラムは、以下の本学大学院博士課程の前期課程・後期課程に所属する大学院生が受講可能であり、所定の手続きによりプログラム履修を希望した年度のカリキュラムを適用する。

「文学研究科哲学専攻、英文学・英語学専攻、文化史学専攻、国文学専攻、美学芸術学専攻」
「法学研究科政治学専攻、私法学専攻、公法学専攻」
「総合政策科学研究科総合政策科学専攻」
「文化情報学研究科文化情報学専攻」
「理工学研究科情報工学専攻、応用化学専攻」
「生命医科学研究科医工学・医情報学専攻」
「スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻」
「心理学研究科心理学専攻」

本プログラムを修了するためには、「修了必要単位」の修得、別に定める「外部試験」の合格、「英語論文投稿もしくは国際学会発表」の全ての要件を満たす必要がある。修了必要単位数は 18 単位以上の修得であり、「同志社大学高等教育科目」群から 1 科目 2 単位以上、「AI・データサイエンス科目」群または「ヒトを見守る科目」群または「社会を支える科目」群から 2 科目 4 単位以上、「社会に寄り添う科目」群から 2 科目 4 単位以上、「ミッション研究」群から 2 科目 4 単位以上の要件を満たす必要がある。

1. 同志社大学高等教養科目

「同志社大学高等教養科目」群では、高等教育に必要な基礎的な知識や技能を獲得する科目を設置する。論文の作成などの技法を学ぶだけでなく、ヒトとして自分を振り返り科学的に示唆を得る手法の獲得を目標とする。また、ヒトとヒト、ヒトとモノ（技術やシステム）を相互に作用させるうえで必要となる基本的な考え方を、Comm 5.0 の見地から文理融合的な手法で学び、同志社大学のミッションの一つであるキリスト教主義に立脚した「良心」についても科学的に思考する手法の獲得を到達目標とする。

2. AI・データサイエンス科目

プログラミング・アルゴリズム・統計解析等の AI・データサイエンスの基盤となる内容を多様な学修形式を

介して提供することで、それらの基盤知識・技術を有し、目的に応じて利活用できることを到達目標とする。

3. ヒトを見守る科目

ヒト由来の多様な情報の取得・処理技術を実験や実習を通して学ぶことで、実践的なヒトに関する知識、人の生体情報を取得および処理する知識・技術を有することを到達目標とする。

4. 社会を支える科目

「社会を支える科目」群では、ヒト由来の多様なデータに対する高度なデータ取得法、データハンドリング法及びデータ分析法について学ぶ科目を設置する。ここでは単なる理解に留まらず、データを通して、ヒトの営む実社会の課題を探り、その解決に向けた手段を提供できる知識・技能を有することを到達目標とする。

5. 社会に寄り添う科目

アクティブラーニングによる演習や実習等を通して未来の技術を社会でどのように活用するかを考察する技術・知識を有することを到達目標とする。

6. ミッション研究

学内の卓越した研究者及び連携組織との共同研究を学生自らが主体的に進めていくことで、今後の社会動向やニーズについて自ら考える能力を獲得し、その他の科目群で得られた知識・技術の体系化に加え、社会での活用を可能にすることを到達目標とする。